

平成22年 5月 6日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：19401016
研究課題名（和文） 旧台北帝大に遺存する国学者・長沢伴雄の旧蔵書に関する総合的研究

研究課題名（英文） The overall research on old collection of books of Japanese classical literature scholar NAGASAWA TOMOO that remains in old Taipei empire university

研究代表者

高橋 昌彦（TAKAHASHI MASAHIKO）

福岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：00216756

研究代表者の専門分野：日本文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：国文学・日本史・国学・長沢伴雄・国立台湾大学

1. 研究計画の概要

本研究は、旧帝国大学時代に海外に流出し現地に残った国学者の膨大な旧蔵書の精査を行うことで、これまで国内の資料によってのみ構築されてきた国学史を是正することを目的とし、調査によって、得られた新資料や新しい視座を公表することで、江戸時代後期の文壇を再構成するものである。

(1) 長澤文庫悉皆調査

これまでの簡単な書名目録ではなく、詳細な書誌を採り、公刊することで、利用者の利便性を高める。

(2) 一次資料『絡石の落葉』の書誌調査・翻字作業

長沢伴雄の歌文を集めた稿本群29点を調査し、翻字を行う。画像データの提供を図書館から受けるとともに、判読困難な箇所は原本によって確認し、研究期間内に公刊する。

(3) 一次資料『伴雄の日記帖』の書誌調査・翻字作業

長沢伴雄の日記・随筆群18点を調査し、翻字を行う。人間関係・思想・有職故実など内容が多岐にわたり、歌文集に比べて判読困難な字体であるため、年数がかかると考えられる。研究期間内に、画像データの提供を受け、翻字作業に入る。

(4) 台湾大学図書館司書への日本古典籍の書誌作成技術指導

台湾大学図書館には、3万冊に及ぶ日本の古典籍が所蔵されており、未整理のものも相当数になる。それらの古典籍は保存処理はなされているものの、専門的な書誌作成技術を持たないために、目録化できない状況にある。そこで、日本語専門の司書職員に対して、書誌作成技術を教授し、将来の目録作成に寄与

したいと考える。

2. 研究の進捗状況

(1) 文庫の悉皆調査については、これまでの目録等において、一括で処理されていた典籍を、より細分化するなどの作業が増えたため、当初の予定より、やや遅れ気味ではあるが、研究期間内には完了すると考えている。詳細目録の公刊については、正式に台湾大学図書館と契約し、2～3年後を目処に目録を刊行する予定になっている。目録は、台湾の人が読んで、内容が分かるようなものにする計画である。

(2) 『絡石の落葉』の調査・翻字については、計画通りに順調に進み、奥付に従えば、2008年度に1巻と2巻が、2009年度に3巻が台湾大学図書館から刊行された。

(3) 『伴雄の日記帖』の調査・翻字については、書誌的調査は終了し、2010年度から本格的に翻字作業に入る。2010年度に正式な契約を取り交わし、5年後を目処に台湾大学図書館から刊行する予定になっている。

(4) 台湾大学図書館司書への書誌技術供与については、本研究以前に他の日本人研究者による台湾大学図書館での調査プロジェクトの仕事を手伝う形で行われた。それは、予定よりかなり遅れていた善本目録の作成に、内容から刊行にいたるまでさまざまな形で助力をすることであった（司書からの依頼による）。作業は、2009年12月に『国立台湾大学図書館典蔵日文善本解題図録』の出版ということで結実した。我々の研究成果としては、表に出ない仕事であったが、図書館の人々には、より深く感謝された。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

長澤文庫の悉皆調査が、予定より若干遅れているが、それ以外の計画は当初の予定通りに進んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

現時点では、大きな変更や問題点はなく、研究計画に沿って進めていくことになる。

本研究の研究期間終了後も、長澤文庫蔵書目録(計画の(1))及び長沢伴雄の日記群(計画の(3))の刊行については、引き続き継続していかなければならない。そのためには、最終年度にあたる2010年度に、館側との話し合いを深め、しっかりした信頼関係を構築しておくことが重要と考えている。

台湾大学図書館は、日本に関する多くの文献資料を蔵していながら、それを公表する術に悩んでいたこともあり、新しい企画を望んでいるように聞いている。本研究で培った信頼が、他の研究者の研究にもつながるように留意し、残り1年の研究期間を充実させ、成果を導き出していくことが肝要と考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 亀井森、長沢伴雄の苦悩—加納諸平毒殺未遂事件前後—、青山語文、38号別冊、6—12、2008、有

[学会発表] (計1件)

① 亀井森 (代表)、台湾大学長澤文庫の意義と有用性について、台大図書館典藏日文線装書之研究価値講演会、2010年3月22日、台湾大学

[図書] (計3件)

① 亀井森主編、国立台湾大学図書館、長沢伴雄歌文集 絡石の落葉 第3巻、2009、230

② 亀井森主編、国立台湾大学図書館、長沢伴雄歌文集 絡石の落葉 第2巻、2008、280

③ 亀井森主編、国立台湾大学図書館、長沢伴雄歌文集 絡石の落葉 第1巻、2008、252

[その他]

ホームページ

<http://kasasagi0629.blog74.fc2.com/>